

優秀賞

『いのちのおはなし』をよんで

徳島県 徳島文理小学校一年 高木 結夢

七月、ひのはらしげあきせんせいがつんごくへたびだちました。百五さいでした。ほんやさんにいくと、ひのはらせんせいのほんがたくさんならべられていました。そのなかでわたしにもよめそうなほんを、おかあさんがえらんでくれました。わたしは、ほんをよんでかんどうしたのははじめてです。むねがあつくなって、いろんなことをかんがえました。

いままで、わたしはいのちはしんぞうのことだとおもっていました。でも、このほんをよんで、いのちとはめにみえるものではなくて、かたちがあるものでもなくて、わたしたちがもっているいきっていくじかんだということをしりました。そのいのちをたいせつにするということが、どういうことなのか、おかあさんとはなしあってみました。

「いちにち、いちにちをいっしょうけんめいいきることだとおもうよ。」

と、おかあさんがいいました。たくさんおともだちをつくって、いっぱいあそんで、わらって、そして、せんせいのおはなしをきいて、べんきょうして、かんがえて、からだをうごかして、ごはんをいっぱいたべて、しっかりねむる。そして、このほんをよみおわったときのようにかんどうする。それが、いきている、ということだとおもいます。

いのちのながさは、もしかしたらさいしょからきまっているのかもしれない。でも、そのじかんでどうやってつかうかは、わたしたちしだいです。ひのはらせんせいのように百五さいまでいきるとしたら、わたしたちにはどんなことにでもちようせんできるたくさんさんのじかんがあります。

ひのはらせんせいは、おいしゃさんとしてたくさんの人のおはなしをきいてきました。たくさんのおかげにかんどうをあたえてきました。せんせいのおかげ

で、いきっていることのうれしさをしり、いきるじか
んをみつめなおし、たいせつにすることができた人
がたくさんいるとおもいます。

わたしも、このほんをよんだことで、はじめてか
んどうし、いきていくことのいみについてかんがえ
るじかんをもつことができました。

わたしも、ひのはらせんせいのようにだれかにか
んどうをあたえ、かんしゃされるようなひとになり
たいです。そのためにも、わたしはいろんなことに
ちようせんして、ないたり、わらったり、かんどう
して、そしていつもいきていることにかんしゃし、
まわりの人たちにもかんしゃをわすれずに、いっし
ようけんめいいきていこうとおもいます。

